

若藤保育園及び繁藤小・中学校の今後に向けた意見交換会 会議録

○日時 令和5年11月14日（火）18：30～19：20

○場所 繁藤地区コミュニティーセンター

○出席者

地区出席者 16名

○事務局

依光市長、白川教育長、中山次長、一圓課長、前田班長、小松班長、高橋係長、
宮脇主幹

○傍聴者

6名

《開会》

（一圓課長）

定刻となりましたので、ただ今から「若藤保育園及び繁藤小・中学校の今後に向けた意見交換会」を開催したいと思います。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

はじめに、会議の開催にあたりまして、依光晃一郎市長より、ご挨拶を申し上げます。

依光市長、よろしく願いいたします。

（市長）

本日はお仕事終わりのお忙しい中、また、お休みの時間の中、お集まりをいただきまして、有難うございます。また、非常に今日は寒くなりまして、そんな中、お集まりいただいた事を感謝申し上げたいと思います。今日は嬉しい事に議員さんもたくさんおいでいただきまして、また、個人的ではございますが、お亡くなりにはなりませんでしたけれども前田泰祐議員にもお世話になっておりまして、繁藤地区の事について、議会で取り上げられることも少なくなって心配もしておりましたが、今日はたくさんお集まりいただきまして、しっかりと取り組んでいくという意思の表れでもあると思いますので、嬉しく思います。

今日は意見交換会という事で、何かが決まっておるという事ではございませんが、まずは現状をお話させていただいて、また、その中でいろいろなアイデアをいただけたらと思います。

また、後で説明もあるとは思いますが、繁藤小中学校の児童生徒数を見ますと閉校になった時より、ちょっと増えているような状況にあります。そういう意味ではまだまだ繁藤地区も伝統も歴史もある地域であると思いますので、まだまだ可能性はあるとは思いますが。行政としましても、しっかりと投資をしていきたいという思いもあります。そんななかで、教育委員会が主体ではありますけれども、市長部局として政策

的な面で、ご要望を聞かせて頂けたらと思いますので、どうぞ、忌憚のないご意見を聞かせていただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

(一圓課長)

依光市長、有難うございました。

それでは、本日の会議は、お配りしました「若藤保育園及び繁藤小・中学校の今後に向けた意見交換会次第」に基づき進めさせていただきます。

なお、夜分お疲れの中でもあり、大変申し訳ありませんが、会議終了については、20時を目途に行いたいと思いますので、ご理解をよろしくをお願いします。

まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。

①次第、②若藤保育園について、③繁藤小・中学校について、以上になります。

資料に不足等ありましたら、予備がありますので事務局にお申し付けください。

それでは、始めに、若藤保育園の経緯・状況について、資料に基づき、幼保支援班から説明をさせていただきます。

(小松班長)

幼保支援班長の小松です。どうぞよろしくお願いします。

それでは、お手元の資料に基づき説明をさせていただきますと思います。

(資料に基づき説明する。)

(一圓課長)

次に繁藤小・中学校について、資料に基づき、学校教育班から説明をさせていただきますと思います。

(宮脇主幹)

それでは、お手元の資料に基づき説明をさせていただきますと思います。

学校教育班の宮脇です。どうぞよろしくお願いします。

(資料に基づき説明する。)

(一圓課長)

保育園、小・中学校について、一通りご説明をさせていただきました。それでは、皆様方から、ご質問、ご意見を賜りたいと思います。

何か、ございましたら、よろしくお願いします。

(市長)

私の方から少し、さきほど説明したとおりですが、学校の方ですが、再開するほど、生徒は増えてはいませんが、ただ、施設を今のままで置いておくのももったいないとは思っています。子どもたちが増えるのであれば維持もしていったらと思っていますが、現状繁藤地区だけではなく、高知県全体でも減っている状況で、現在の知事選挙で濱田知事が言っているのが、全国で一番、高知県で生まれる子どもの数が少なかったとの事です。今後増える事と考える事は難しいと思っています。

その中で、サテライトオフィスとして活用したいとの要望や、この地域は雨は多いですが高台にあるところであるとか、景色がいいとか、光回線も通じましたし、トレ

イルランニング等、スポーツを楽しむ森林公園等、見方によっては魅力的に映るとい
う方もいらっしゃる、アイデアをお持ちの方もおいでるので、皆様方のご意見を取
り入れながら、市として投資をしていくような事を考えていきたいと思っております。
何かアイデアはありませんでしょうか。

(地区住民の方)

これから極端に児童生徒が増える事はないと思いますので、私としては現状維持。

(一圓課長)

現状維持とは、今継続のサービスを現状維持という事でしょうか。保育園は新改保
育園、保育園への送迎もしておりますが、送迎も継続という事でしょうか。

(地区住民の方)

令和6年度で小学校10人、中学校2名ですが、これ何年もすると減っても、増え
る心配はないと思いますが、さしあたっては、これよりもっと減るまで現状維持と。
皆さん、それぞれ意見はあるとは思いますが。

(地区住民の方)

サテライトオフィスとする場合は、廃校という事になるという事でしょうか。

(一圓課長)

別の事で活用するとすれば、休校のままでお貸しする事はできないので、廃校と、
また、若藤保育園を使いたいという事であれば、廃園等の手続きを行わないと難しい
現状となっております。

(地区住民の方)

見通しも厳しい中で、行政の方ではどのような考え方を持っているのか。例えば、
再開の目途がなければ、早く廃校、廃園にしたいか等、どうでしょうか。

(市長)

たとえば、今の10名で小学校を再開するかというと、香長小学校へ今通っていて、
繁藤地域以外の友達もいて、再開すると別れるという事になるので、子どもたちも望
んでいるのではないかと思います。

送迎については、タクシーもお世話になっておりますが、しっかりと維持したうえ
でと考えています。学校は義務教育でもあり、繁藤に住むことが不利にならないよう
にと考えています。

一方で、ここで結論を出していただければ、次の投資をしやすくなると考えていま
す。

ただ、現状維持という事で、再開を目指していくという事であれば、それはそれで
尊重をしていきますが、議会の承認が必要です。

一旦区切りをつけて、雇用の場を作っていくという可能性があれば、チャレンジを
していきたいと考えています。ただ、地元の意見を無視してまで自分の意見を押し付
けるつもりはありません。

(地区住民の方)

現在は休校という事ですね。廃校にならないと他の事には使えないという事ですね。

(一圓課長)

廃校になれば、使えます。

(地区住民の方)

廃校になればいろいろアイデアが浮かびますが、休校の間は何もできないという事ですね。

(市長)

学校としての機能を有していなければならないという事ですが、例えば、その中で、地域の行事で使いたい事もあるかとは思いますが、色々制約はあります。

平山小学校も同じような状況で、耐震化は大体終わりましたが、廃校という道を選んで、今はほっと平山という施設となって、色んな活動をやっています。宿泊施設として、やっています。ほっと平山は廃校したからできたと考えていただけたらと思います。

(地区住民の方)

ここ（繁藤地区コミュニティーセンター）なら、パソコンは使えますよね。

(市長)

ここ（繁藤地区コミュニティーセンター）は使えます。

(一圓課長)

若藤保育園の方ですが、建物はいいですが、やはり休園のままだと、他の方に使っていただく事はできないです。

(地区住民の方)

パソコンとかはネットを繋ぐとすぐできそうな気がします。パソコンだけでもできればと。

(一圓課長)

そのままでは、使えないです。

小中学校の方は老朽化や雨漏りもあり、施設としては良くないですが、若藤保育園の方は掃除をすれば、すぐ使えると思いますが。

(地区住民の方)

ここ（繁藤地区コミュニティーセンター）なら、パソコンは使えますよね。

(一圓課長)

ここ（繁藤地区コミュニティーセンター）なら、使えます。

(地区住民の方)

若藤保育園はすごくきれいです。その活用をどのように活用されるか考えておられるでしょうか。天理教の教会の館長をしています。高齢者が多いので、任意のNPOとして、子ども食堂と高齢者向けのお弁当の配食をして毎週木曜日に30食ぐ

らいやっていますが、よく聴く声がデイサービスとか遠いから、結構不便だという声を聞くんですね。コロナも相まって地域の集まり事も無いし、寂しいと、そういう声を聞いて、地域包括ケアの観点で、通所型サービスA型、B型とあるんですが、きちんと雇用して給料を入れてやるのがA型、地域の人でやるのがボランティア的にやるのがB型と、それを最初教会でしようかなあと思っていたんですけど、教会の関係もあってできないと、そこで、若藤保育園が空いているからできればいいよねと、何人かで話し合っていたんですけど、使うとなればサテライトなんですけど、高齢者向けの催しか何かの活動をできないかなあと思ったりしていたんですけど、どういうふうに考えておられるのかなあと。

(市長)

アイデアとしてはいいと思います。施設の有効活用という形で、そういったお声があったら、前向きにやりたいと、色々と介護施設の補助金もあるので、そういった補助を出してやりたいと、そこで、やるとなった事に、1事業者に決めるのに、公募という形、提案型というような形を踏まないといけないと思っていますし、決まってもいない事ですが、若藤保育園の跡地利用、市の所有物の有効活用として、何かないですかと募集をかけて、委員会を作って、選考委員会のような形で。

当然、繁藤地区の方にも入って頂いて、決めていくという形をとりたいと思いますが、市として、この施設、この企業しか入れませんとかいう事はないです。地元の方が望んでいる、地元の方に活用できるものが一番いいです。そういう手順を踏みたいと思っています。自分が言っているだけで、違う流れかも知れませんが。

(小松班長)

若藤保育園の方ですが、検討の中で1つ考える事がありまして、交付金を使っているという事で、有償でお金を取ってやる場合には、一部返還を要する場合がありますので、その事も検討の中に含まれます。市長からさきほどお話のあったように、地元のためにというところは考えていきたいと思っています。

(一圓課長)

地元の方々に無償で貸して地域のために使う事は可能ですが、交付金を使って建てているものなので、そこでお金をとってやる活動については、返還を要する可能性があるという事になります。

ただ、子ども食堂さんだと地域に根差したところがあると思います。

(地域住民の方)

平山のような形にはなれないでしょうか。

(一圓課長)

平山は宿泊施設として建築許可をとって改修して、運営を行っている状況なので、繁藤が廃校になって、そのまま、宿泊施設は難しいと思います。それ用に建築許可をとって行えば、それ用にはできると思います。

(地域住民の方)

私、繁藤から県外へ出てプログラマー・IT関係の仕事で働いてUターンしましたが、県外へ出る前に、ちょうど若藤団地ができた頃で、保育園も新しくできて、これで人も増えると思っていたが、県外から帰ってきて、増えていなかった。仕事で小学校へ入る用事もあり、さきほどお話でもあったように、玄関もそのままになっていて、9年間通っていた者の身としては少し苦しい感じがしています。何か活用していただけるという事で、サテライトオフィスというお話もありましたが、光回線も通っていますし、いいとは思いますが、その際に廃校にしないといけませんが、廃校にすると地域から教育が無くなる、そうになると、子ども達がこの地域に愛着が持てるかと危惧しています。その中で、愛着の持てない子が、地域に子どもたちが帰ってくるかと。

10年後、20年後ここへんの人口がどうなっているのかなあと。

サテライトオフィスの活用と同時に、学校の活用も地域のにぎわいになるようなものと一緒に考えればと、地域の店も無くなったので。地域の人がふらっと寄れるような施設が無くなったので、そのような施設が必要かと。

(市長)

有難うございました。まさに子どもたちの教育という事で、言われるとおりでと思います。子どもたちのいい思い出を、この地域で育ってくれている、ちょっと心苦しいですが、香長小学校ですが、自宅から通える交通支援とか、12月補正予算で、高校生を中心に交通費の補助について、準備をしているところです。両親、祖父母が近くに住んでいるという事が理想であると思うので、そういった形の事はしたいと考えています。

賑わいのところはできるだけ残していきたいと思っております。買い物、医療、介護など、必要な部分というものはあって、今無いところは、市営のバスを使って利用してもらっているとか、ご不便はおかけしておりますが、公共交通はしっかり維持していきたいと思います。

人口はどうしても減っていくので、そういった中でどういったやり方があるのかを模索していますし、県内の色々な地域で頑張っている、施設の利活用を行っているところもあります。繁藤地区にあった方法で、それについての支援はしっかりと行っていきたいと思っています。まずは、一緒になって考えていきたいと思っています。

(教育長)

香長小学校におきましても、繁藤地区から通ってくれているお子様が非常に大活躍をされておられます。今学んでいる子は香長小学校が母校となりますが、そのお子様は決して繁藤の事を忘れていたわけではないですし、大変大切にしていると思いますし、香美市としましても、災害の学習につきましても繁藤が学習の核でございますので、毎年、そういった学習を続けさせていただいております、子ども達は非常に真剣に取り組んでおります。

本年度もお世話になりまして、今後も引き続き、取り組んで参りたいと思っております。

ます。香長小学校だけでなく、繁藤災害に学ぶという事で、香美市全体で学習を続けておりますので、非常に感謝を申し上げたいと思いますし、子ども達が自分達でどうやって自分達を守っていくかを、あるいは新しい未来に向けて、どういう学びを獲得していくかという事では、非常に強い原動力になっておる事はお伝えをしたいと思います。本当に感謝を申し上げます。

(地域住民の方)

廃校、廃園への手続きは難しいですか。

(小松班長)

保育園の手続きですが、議会へ廃園をお諮りして承認されれば、県へ届出を行う事が必要です。あと補助金があれば、国へ届出となりますが、ほとんどが事務的なもので、そんなに手続き的には難しいものではありません。

(一圓課長)

学校も同じような流れです。議会の承認が得られれば。

(地域住民の方)

我々のイメージではもっと簡単にいくかと思っていましたが。

(市長)

繁藤地域として意思を示していただければ、執行部として、教育委員会として、議会へお諮りをさせていただいて、議会で議論していただくという事ですが、地域の意向の決め方をどうやって決めていくかとなるとなかなか難しい話にはなるかと思いますが、地域の意見を聞いて、そういう意見が多いという事で、議会へお諮りするという事だと思いますが、地域から要望書等をいただければ有難いと思います。手続きとして意思さえ示していただけたら、できない事はないです。まだ、決めてはおりませんので、意思さえ決めてもらえれば。

(一圓課長)

他に何かご質問、ご意見はございませんでしょうか。

(市長)

このような場で非常にいいにくいとは思いますが、会のあとでお話しいただいても結構です。そのお話しについても、しっかり聞かせていただきたいと思います。

(途中から来られた方へ、市長から説明の概要を説明する。)

(地域住民の方)

保育園を休園から再開するには、最低何人からでしょうか。

(小松班長)

決まりはありません。

(地域住民)

こちらが希望すれば、何人でも再開してくれるという事でしょうか。

(小松班長)

予算の関係もありますので、一定ないと難しいです。例えば、5、6人の子どもを預かるとして、正職2人、会計年度任用職員3人の保育士、調理師1人の職員を配置となると、ざっとですが、2,500万から2,600万円ぐらいが人件費として必要となります。財政的な事もあって、なかなか難しい状況です。

(地域住民の方)

それぐらい予算が必要となると、こういう会をやって、こちらがやってほしいと言っても無理という事ですよええ。

(小松班長)

10人、20人とかいう事になれば、休園であれば、開園という事になりますが、閉園して、開園という事も出来ない事はないですが、閉園であれば、他へ転用できるという事はあります。人口減少の中で開園は難しいという中で、他へ転用する事を検討いただくという事が今日の会の趣旨であります。

(市長)

少し補足をさせていただきますと、大柝は今5人で、できない事はないですが、職員配置の事もあり、大柝閉めて、若藤を開けるかとか、また、なかなか保育士の採用も難しく、言ってみれば、子どもの数より先生の数が多いという状況になります。

子どもの事を考えると、子どもも一定人数がいる中で成長する事はいいという事もあります。

大柝に関しては自分としてはなんとか残していきたいとは思っていますが、このまま減っていくと、正直、悩ましいところではあります。

数ではないというところですが、市長として判断するしかないと思っています。

現状では、再開するには2桁ほしいというところが正直なところです。

(地区住民の方)

本当は開けてほしいですが、今の若いお父さん、お母さんが、子どもがたくさんいる方を望んでいるのか、少人数を望んでいるのかという事ですが、私達の世代は、保育園は近くで空いていたらいいなあという思いはあります。子どもの声が近くで聞こえればと思いますが、親がたくさんの子どもがいるところを望んでいるのであれば、仕方がないと思います。

(小松班長)

平成18年度に休園したときには、当時保護者であった教育委員の方からお聞きしましたが、集団保育の重要性を念頭に置かれて、子どもの将来を考えて、休園の判断につながったとのお話も聞いております。

保育園の保護者の方から、ご意見をいただけたらと思いますが。

(地区住民の方)

近くに保育園があつたら負担は少なくていいんですが、今、年中であと来年1年なので、友達関係もできて、近くにあれば嬉しい反面、子どもの事を思えば、繁藤地区

の子はみんな知っているんですが、他の地区の子も仲良しになっていまして、悩んでいるんですが。

(市長)

今、タクシー送迎を利用されているのですか。

(地域住民の方)

はい。

(市長)

タクシー送迎で何か、希望とかありますでしょうか。評価とか。

(地域住民の方)

非常にありがたいと思っています。運転士さんとかに良くしていただいて。感謝しております。

(地域住民の方)

タクシー送迎について、非常に恵まれていて、家から送っていただいて、助かっていますが、3歳より下の送迎とか事例はありますでしょうか。

(小松班長)

すみません。事例は把握できておりません。送迎は香美市では若藤だけですが、3歳になると1人で乗っていられるとかいう事でやっていると思いますが、3歳未満であれば、送迎に人の配置が必要にある事が考えられます。そんなこともあって、3歳以上という事でやっていると思います。建物は0歳児も入れるようにはなってはいませんが。

(地区住民の方)

休園中に住民が園舎を貸し出ししてもらって、地域の行事等で使う事は絶対だめでしょうか。

(市長)

保育施設の貸し出しについては、調べてみます。

(小松班長)

保育施設は行政財産となっていますが、継続的に貸し出すのは難しいと思います。

(地区住民の方)

地域で使えたら、有難いです。せっかくありますので、見て眺めるよりは、もったいないと思いますので。

(市長)

自分ももったいないと思います。

(一圓課長)

他に何かありませんでしょうか。

(一圓課長)

それでは、ご意見等もないようでございますので、これで意見交換会を終わりたいと思いますが、尚、本日いただきましたご意見を参考に、今後の施設の活用について

は、検討してまいりたいと思います。

なお、施設の方向性等が決まりましたら、地域の皆様方へ、自治会長様や保育園、小中学校等を通して、お知らせをさせていただきたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

以上をもちまして、「若藤保育園及び繁藤小・中学校の今後に向けた意見交換会」を閉会させていただきます。閉会にあたりまして、白川景子教育長より、ご挨拶を申し上げます。

(白川教育長)

本日は夜分、お忙しい中、このように大勢お集まりいただき、貴重なご意見を賜りまして、有難うございました。感謝を申しあげたいと思います。さきほど、途中で少しお話もさせていただきましたけれども、日頃から、子どもたちの健全育成、そして、これから生きる子どもたちの教育のために、ご尽力をいただいております事に心から、深い敬意を表するところでございます。今後もしっかりと、受け止めてまいりたいと思います。今日の若藤保育園、繁藤小・中学校の利活用につきましては、市の方で何か決定して、こちらに来たという事ではございません。ご意見のように現状で、このままおいて、地域の方々がどのように思われているだろうか、もうちょっと利活用ができて、地域のにぎわいに利活用につなげる事ができるようであれば、もっと前向きに検討してもらえないだろうかとかいうご意見をお持ちではないだろうかという事を私たちも思いまして、しばらく、お考えをお聞きする機会も設けておりませんでしたので、このように設けさせていただいたところでございます。

たくさんご意見が出てきましたので、これらひとつひとつにつきまして、今日、お答えできなかった事につきましては、きちんと回答もさせていただきたいと思っておりますし、ひとつの方向で今、ご意見がまとまったという状況ではありませんので、それらを参考にしながら、また、皆様方のご意見を伺いたいと思っておりますので、是非、繁藤のにぎわいに活用できる、そういったふうに動いていきますと私もいいと思っております。

本日はどうも有難うございました。

(一圓課長)

それでは、これで終了したいと思います。皆様、お気をつけてお帰りください。

午後 7 時 20 分終了